

明治大学教育会研究大会 分科会概要

第1分科会 特別支援教育の現状 ～自閉症児童, 指導の実際～

阿部光一 先生(宮城県柴田郡村田町立村田第二小学校)

[発表概要]

近年、教職を目指す学生は、中・高に加え小学校の資格取得者も増加傾向にある。一方、教育現場では、児童・生徒数の減少に伴い学校統合・小中合併が推進されている。いきおい資格のないまま、特別支援教育の担当を任される場合もある。ここに、支援学級の指導事例を紹介し、子供の成長過程から、普通学級が学ぶべき点を提案し、教職を志す学生の参考に資するものである。

なお、本実践発表を通じ、明治大学教育会、宮城県支部の設立に向け、自ら牽引的役割を果たし、母校への恩返しをするため、応募した次第である。

- 1 特別支援教育の現状
 - ・制度的位置づけ
 - ・普通学級との類似点と相違点、理論と実際
 - ・特別支援教育独自の学習方法 個に応じた指導法の工夫・研究
- 2 特別支援教育指導の実際
 - ・現場での実践例～あすなろ学級(自閉症)の学習～学び得たこと
- 3 まとめ
 - ・特別支援教育は、個に応じた学習・生徒指導が究極にある。その個別指導は、普通学級に充分応用可能である。その成長の喜びは、教師冥利に尽きる、きわめてやりがいのある職務である。

第2分科会 効果的な教員研修に向けて 一研修の体系と実践一

笠原紀昭 先生(栃木県立宇都宮東高等学校)

[発表概要]

発表者は昭和60年に文学部文学科日本文学専攻を卒業し、同年4月より栃木県立那須工業高等学校教諭として6年勤務した後、県立石橋高校教諭として11年、県立宇都宮東高校教諭として11年、県立宇都宮工業高校定時制教頭として1年勤務し、現在、県立宇都宮東高校兼宇都宮東高校附属中学校教頭として2年目となる。

この間、悉皆の公的研修の他、OJTとしての先輩教員からの日々の研修、国語科教員による研究会(グループブリコラージュ)での教科指導に関する研修や放送大学大学院での修士号取得といった自主研修、県主催の海外派遣研修、教員の社会体験研修として1年間の民間企業研修、独立行政法人教員研修センターでの中堅教員中央研修(各地域の中核となる校長教頭等の育成を目的とした研修)などを経験した。

それらの経験を踏まえ、教員研修を効果的に行うための留意点等について、現職の教員及び教職を目指す学生に向けて発表したい。合わせて、栃木県初の県立中高一貫教育校開設に携わり、現在教頭として学校経営に携わる立場から、学校に求められるものとは何かについて話し合いたい。

第3分科会 「高校の英語の授業は英語で行う」 そんなことできる？ － 授業改善の一考察 －

篠崎保夫 先生（千葉県立君津商業高等学校）
市川靖子 先生（千葉県立君津商業高等学校）

〔発表概要〕

現行の指導要領で、「授業は実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする」と明記されている。確かに、理想だ。しかし、多くの英語教師が理想と現実のギャップに悩んでいる。英語学習に抵抗感を抱いている生徒が多くいる学校で、英語で授業をすすめたらどうなるだろうか？ どうしたら、生徒の気持ちを英語学習に向けられるだろうか？ 高校3年生(1クラス生徒数約40名)を対象とした公立高校での1年間の授業実践奮闘記をご覧ください。

第4分科会 教師の魅力とやりがい ～生徒が可愛くて仕方ありません～

駒木正清 先生
(豊橋市教育委員会教育政策課教育総合アドバイザー)

〔発表概要〕

明治大学での大きな挫折から高校教員を目指し、社会科の教員として地元愛知県での工業高校の定時制に9年、新設校に8年、県庁勤務7年、困難校で教頭6年、2校で校長8年の教員生活を送り、今春、定年を迎えました。38年間の教員生活を振り返ってみて、「生徒が可愛くて仕方ない」と言っただけから教員という仕事に就けた幸せをつくづく実感しています。教員を目指す学生に私の実践が少しでも参考になればと考えています。

担任として…定時制、困難校、進学校での実践。

日本史教員として…実物教材を活用した事業づくり。

管理職として…こんな人材が現場で求められている。

第5分科会 アクティブ・ラーニングをはじめよう！

岸 磨貴子 先生(明治大学国際日本学部)

〔発表概要〕

本分科会では、アクティブ・ラーニングをテーマとしたワークショップ型の発表を行います。具体的には、以下の3部で構成します。

【1部】はじめに、初等・中等教育におけるアクティブ・ラーニングの様々な実践事例を紹介します。アクティブ・ラーニングには、授業の一部に導入できるグループ・ワークから、授業全体を学習者中心の活動にするプロジェクト型学習など幅広くあります。まずは、アクティブ・ラーニングの形態や具体事例について学びます。

【2部】次に、参加者のみなさんに、アクティブ・ラーニングを体験いただきます。たとえば、思考力育成のために注目されているシンキング・ツールを活用した思考活動や、タブレット端末を活用したストーリーテリングを予定しています。(※タブレット端末等の準備は不要)

【3部】最後に、アクティブ・ラーニングに関する問いや課題を参加者から提案いただき、そのトピックをもとにダイアログ・セッションを行います。4～5人の小さなグループを作り、トピックについて話し合います。

「アクティブ・ラーニングってどうするの?」と思っている学生の方、「具体的にどのようにしたら効果的な授業になるのか」と悩んでおられる現職の先生方と共に、本分科会では、アクティブ・ラーニングを実際に経験しながら学びたいと思います。

第6分科会 生徒と教師が楽しみながら学ぶ英語の学習指導

井上無央 先生(北海道千歳市立青葉中学校)

[発表概要]

- 1 現在、取り組んでいる授業の実際
 - (1) 教科書を利用し、深い読解力を身につけさせる
 - (2) 会話を重視した英語授業の構築と具体的な学習指導プログラム
・国際化の進展・・・生徒の環境の変化—英語の使用頻度の増大化
(生徒のコミュニケーション活動の実態>教師の指導実態)
 - (3) 音読の指導法、速読の指導と学習効果の実際
- 2 授業の実践的分析と評価法の工夫
 - (1) 学習評価の実際と課題
 - (2) 学習効果高めるテストの改善・工夫

第7分科会 若手教員と語る — 教育現場の現在と課題 —

高橋靖之 先生(明治大学文学部)

[発表概要]

若手教員が直面する教育現場の課題について、どのようにして乗り越え、教職経験智を深めて明日へ望んでいくか、参加者、将来教職を目指す学生そして教職課程教員とで意見交換をする。

具体的には、教科指導・生活指導・特別支援・部活動指導等々を、パネル討論形式で進めていく。(学生参加可：明治大学教職課程常設分科会)

分科会を2つに分け

Aグループ(教職経験3年程度) 司会 高橋靖之

中里一貴先生 群馬県藤岡市立北中学校
早川晃央先生 富山県射水市立小杉南中学校
遠藤拓馬先生 千葉県千城台西中学校

Bグループ(初任者) 司会 伊藤直樹・伊藤貴昭

山口夏樹先生 日体桜華高等学校
新井孝和先生 埼玉県立上尾南高校
木村愛美先生 神田一ツ橋中学校

として、問題点の掘り下げを深めたいと考えます。

第8分科会 どんない立場の教員でも必ず直面する様々な課題への対応と解決策

井内弘之 先生（千葉県社会人研修センター）

〔発表概要〕

学校現場では、いつ「いじめ・暴力事件・登校拒否・体罰・傷害事件・自殺・非行問題」などの児童・生徒・保護者・学校が関係する事案が発生するのかわからない状況の中で日々の教育活動が行われているのが実態と言える場面が少なくありません。観察や指導を行っているつもりでも漏れや落ちがあったり、気づかないうちに事態は進行しており対応が後手に回ってしまいうことも見受けられます。態様は様々ですが、教師や学校側には迅速かつ説得力ある対応や解決策が求められることとなります。

今回、私のこれまでの教職経験の中で実際に起こった事例を幾つか（3つ程度を考えています）取り上げ、その実態に対しどう対応したのか、また、どういう指導法が適切であったのか、今後同様のケースが生じた場合にどう進めていくことが必要なのかを分科会参加者で考え、現場で活かせれば幸いと提案します。

第9分科会 大学生による中学校での講演 ～ナナメの関係を求めて～

出川英樹 先生（大宮開成中学・高等学校）

〔発表概要〕

本校で実施している生き方講演（対象：中学3年生・テーマ：自己理解）に、明治大学の学生を招いて、講演をしていただいている。5年近くの取り組みとなるが、今までの経緯や目的、内容、課題などを検討し、大学生と学校現場とを結ぶ活動を紹介したい。

第10分科会 数学の授業作りの方法 ―現職の先生方から学ぶ

佐藤英二 先生（明治大学文学部）

〔発表概要〕

若手の先生方から、数学科の授業作りの方法と思想を学びます。

大学で学んでいたころ、教育実習での経験、初任期を経て、今日に至るまでに、授業作りの方法や授業に対する見方はどのように変わってきたのか。担任の経験、部活動での生徒との関わりなど、さまざまな教職の経験が授業作りを深める上で、どのように関わっているのか。初任期にどのようなご苦労をされ、それをどのように乗り越えてこられたのか。その他、同僚との間での創造的な教師文化を作るために心がけておられることなど、話は多岐にわたると思われませんが、授業作りの方法と思想との関係に焦点化して、具体的にお話しいただく予定です。（来ていただく先生については、現在交渉中）

以上